

関東ふれあいの道(栃木)「㉔昔をしのぶ古墳のみち」

2025年4月23日 池内淑皓

2025年3月24日(月)、昨日は馬頭温泉郷に宿泊した。ばとう道の駅バス停で西那須野駅行きに乗り、今日歩くコースの、出発点へ一番近いバス停「佐良土」で下車して歩く。一番のお目当ては、「那須国造の碑」を見る事にある。また那須の古墳群を訪ねるのも楽しみだ。



関東ふれあいの道「㉔昔をしのぶ古墳のみち」案内板



概略地図 なかがわ水遊園→上・下侍塚古墳→笠石神社(那須国造の碑)→那須神社へ



なかがわ水遊園を出発してすぐ③②(今日歩くコース)、③①分岐点がある。那須与一神社目指す 11km



分かり易く新しい道標だが、交通がますます不便になって、ここまで来るのに大変



県道を離れるとすぐ、静かな農道を歩く事になる



馬頭観音と、出征軍馬忠霊塔等農道の傍りに祀られている。昔ながらの道だね



道標を見失わなければ、とても静かで癒されるトレイル



里山の端をくねくねと歩いたり、ぶらり旅を楽しもう



「上侍塚古墳」(前方後円墳)昭和 49 年国指定史跡



全長 114m、那珂川の右岸、河岸段丘に位置する。畑の中に取り残された様にある



江戸時代、水戸光圀公が手厚く保護したと云う



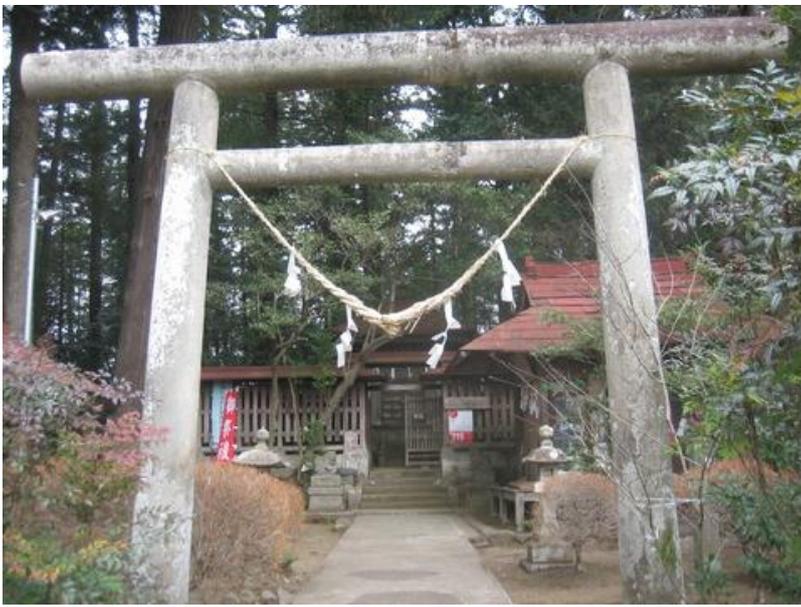
「下侍塚古墳」(国指定史跡)那須地方では最大級の古墳で、9世紀末頃の墳墓



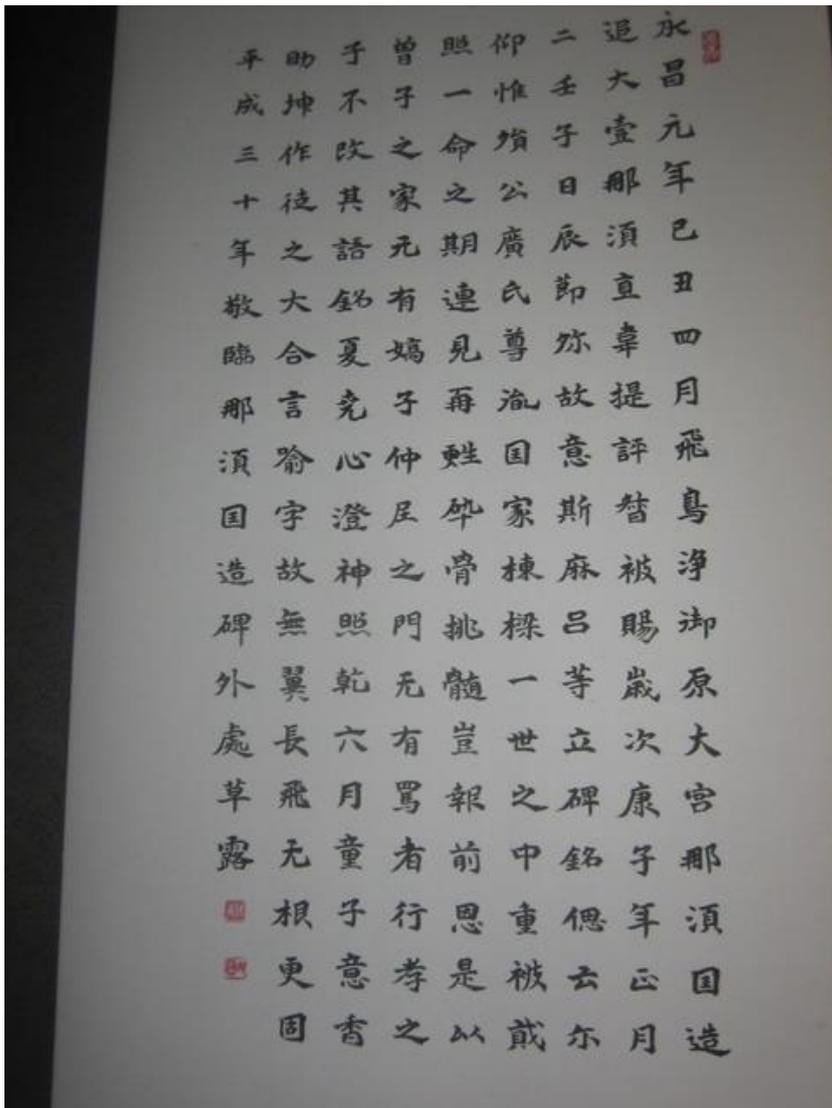
元禄5年(1692)水戸光圀公により発掘される。出土品は記帳し、箱に収めて埋め戻された。



墳墓は再び整地され、松を100本程植え崩壊を防いだ。「日本考古学発祥の地」と云われるゆえんである



「笠石神社」ご神体は「那須野国造の碑」(国宝)で、お堂の中に祀られている
 宝永4年(1676)旅僧が発見、碑文を見た水戸光圀が手厚く保護して、堂宇を立て保護した



永昌元年(中国の暦、西暦 689 年)父の葦提(いで)が国造(くにのみやつこ)から評督(ひょうとく)に任官した。
 荣誉な事だと、子が父の偉業を顕彰する碑。国宝の意味は、律令制度発足前後の官位が記されている事による



またまた畑の畦道を歩く、ゴールまであと6.8kmある



日差しが無いから暑くもなく、寒くもなく丁度良い気候



途中「霊牛山 威徳院 極楽寺」と言うお寺があった。



真言宗智山派で、大治 5 年(1130)真雅上人が開基、明治 4 年火災で焼失し、その後の再建



今歩いている道は梨畑が多く、湯津上地区の梨街道と名付けられている



梨畑を過ぎれば、またも広々とした田圃、畑の中を行く



小高い丘陵に出ると、牧場の脇を通り抜ける。若い娘さんが子牛の世話をしていた栃木県の牧場も採算が悪く、かなり廃業していると嘆いていた。頑張るよ！だって



また平地の畑道に戻ると、馬頭観音の碑があった



ゴールまであと1.2km



ゴールの那須神社に着いた 14:10 分、バスは 15:41 までないから、ゆっくりお参りしよう



粗削りなお獅子のお出迎え



ご神木の榎(さわら)樹齢 250 年と言う



この榎の木は一本だけだから、江戸時代記念樹として植えたのだろう



「手水鉢」(重文)寛永9年(1642)黒羽藩主大関高増が願文を記して奉納した



楼門(重文)寛永11年(1644)建立



畔形・阿形に代わって 那須与一を置く



「石灯籠」(重文) 黒羽藩主大関高増の寄進 重厚できれい



「本殿」(重文)祭神八幡宮、平安末期の創建、中世から近世まで那須氏、大関氏の氏神であった。現在の社殿は、寛永 18 年(1641)黒羽藩三代大関高増により整備された



神社前発 15:41 西那須野駅行バスが来た



西那須野駅発 16:28 の宇都宮駅行に乗車。ビールで乾杯しよう

[参考タイム] 道の駅馬頭バス停(9:27)→佐良土バス停(9:40)→上侍塚古墳(10:25-10:30)
→笠石神社(11:05-11:45)→那須神社(14:10-15:41)→西那須野駅(16:15-16:28)→
宇都宮駅(17:05-17:15 熱海行きに乗車) この項完

関東ふれあいの道栃木は、この先交通不便の為ウオークを断念する。群馬県を歩く事にしたい